事 務 局 記 事

1. 火山噴火予知連絡会開催状況（平成17年6月～平成17年11月）

平成17年6月21日(水)　・幹事会
・第101回火山噴火予知連絡会(定例会)
(以上の議事録は、会報91号に掲載。)

平成17年11月2日(水)　・幹事会
・第102回火山噴火予知連絡会(定例会)

平成17年11月22日(火)　・伊豆部会　第1回伊豆大島の火山活動に関する勉強会
(以上の議事録を本号に掲載。)

2. 第102回火山噴火予知連絡会について

全国の火山活動についてのまとめ（80ページ）を公表した。藤井会長、石原副会長、横田委員（気象庁）が記者会見で説明した。

3. 火山活動に関する説明会について

事務局（気象庁地震火山部火山課）では、定例の火山噴火予知連絡会後に、地方自治体および関係機関の防災担当者を対象に連絡会での検討内容を説明する会を開催している。第102回連絡会の翌々日の平成17年11月4日に開催し、8機関11名の出席があった。

4. 火山噴火予知連絡会伊豆部会　第1回伊豆大島の火山活動に関する勉強会について

各機関の観測体制について紹介し、活動の現状について議論した。以下、主な議論のポイント。

- 火山性地震はカルデラ内と周辺部で発生
- 1986年噴火後1989年頃から長期的な膨張が継続、火口周辺では収縮
- 膨張はカルデラ内の地震活動の活発化と同期して間歇的に発生
- 膨張源は、カルデラ北部直下深部、マグマ供給率は最近は年間約200万m^3
- カルデラ北部直下の膨張源に加えて岩脈状の変動源も想定可能だが要議論
- 膨張は2000年頃から鈍化
- 膨張の鈍化は新島・神津島近海のマグマ活動の影響か
- 地殻変動源の時間的空間的変化をより詳細に見ていく必要
- 全磁力観測では三原山火口直下の温度低下、深部での温度上昇を示唆